

THANKS

BUSINESS NEWS LETTER

(VOL. 205)

発行日：平成26年7月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-0043
埼玉県所沢市弥生町1792-10
TEL:04-2907-1715
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「経営分析の基本⑥」・・・効率性の深掘り

本誌では、「経営分析の基本（数字から会社の状況を把握しよう!）」というテーマを特集しています。

今回も、その続きです。

「経済性分析」の中の「効率性分析」を更に深掘りしてきます。

1. 前回の復習・・・「収益性」の深掘り

分析とは、大きな塊を細かく分けること!!!。

この基本的な考え方に基づき、前々回は、経済性を「収益性」と「効率性」に分けました。

$$\begin{array}{l} \text{(経済性)} \\ \text{総資本経常利益率} = \frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} \\ = \frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}} \\ \begin{array}{cc} \downarrow & \downarrow \\ \text{売上高経常利益率} & \text{総資本回転率} \end{array} \end{array}$$

また、前回は「収益性」について掘り下げました。

収益性分析とは、「売上高に対して、しっかり儲けているか」を見るための分析。

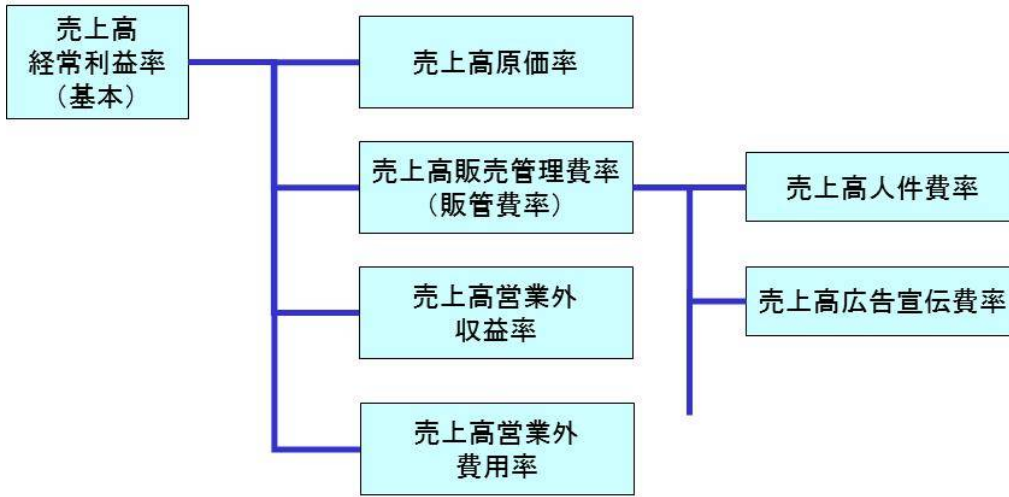
基本的には、「売上高経常利益率」で評価します。

しかし、仮に経常利益が少ないといっても、その原因は様々なことが考えられます。

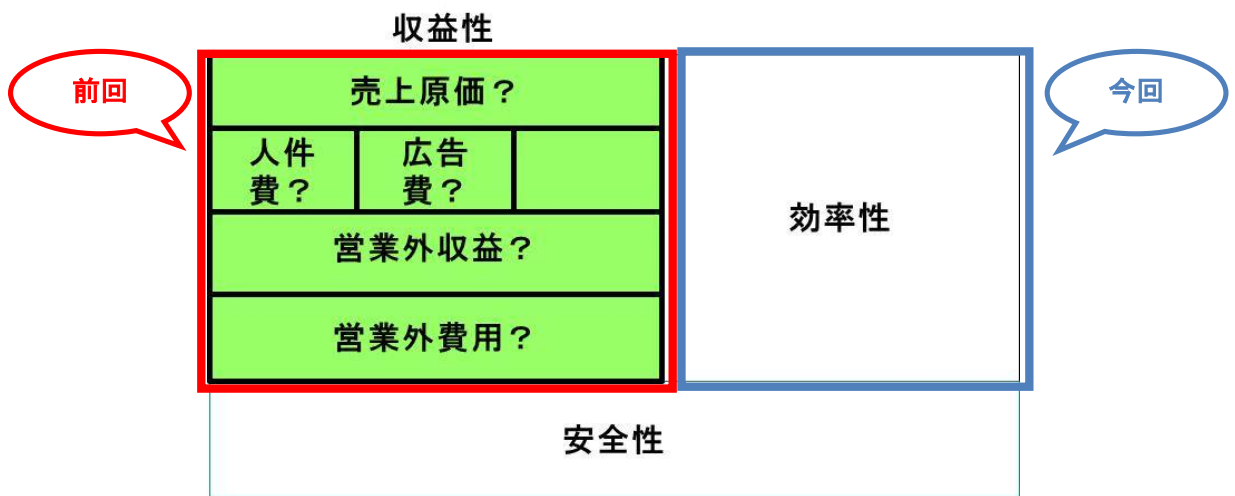
「売上原価?」「販売管理費?」「営業外収益?」「営業外費用?」。

その原因を探るために、次ページの通り、さらに細かく「分けて」みました。

ちなみに、各比率は「**項目÷売上高**」で求めます。



これまでの深掘りの考え方を図示すると、以下のようになります。



2. 「効率性」の深掘り

さて、今回は、上図の右上の「効率性」について掘り下げましょう。
 効率性とは、「売上高に対して、つぎ込んでいるお金が多すぎないかどうかを見るための分析。
 基本的には「総資本回転率（売上高÷総資本）」で評価します。

売上高=2,000

資産		負債		
流動資産	現預金	50	流動負債	200
	売上債権 (売掛金・受取手形)	400		
	棚卸資産(在庫)	100	固定負債	500
	その他	50		
	合計	600		
固定資産	土地	200	合計	700
	建物	100	純資産	
	設備	100	資本金	100
	他	200	その他	200
	合計	400	合計	300
合計	1,000	合計(総資本)	1,000	

お金をつぎ込み過ぎているのは、余分な財産(=資産)を持っているから！

前ページのように、損益計算書の売上高＝2,000。
また、貸借対照表が図の通りだとすると、総資本回転率は、以下の通りで計算できます。

$$\text{総資本回転率} = \text{売上高} \div \text{総資本} = 2,000 \div 1,000 = 2.0 \text{ 回}$$

もし、時系列（対前年度）や、目標と比較してみて、「2.0回」が悪かった場合どうでしょうか？
売上高に対して、「つぎ込んでいるお金（＝総資本）」が多すぎるということですが、この指標を見ているだけでは、何が悪いのか分かりません。

実は、つぎ込んでいるお金（総資本）が多すぎるのは、貸借対照表の右側（負債・純資産）の問題ではありません。

すべて、左側（資産）の問題です。

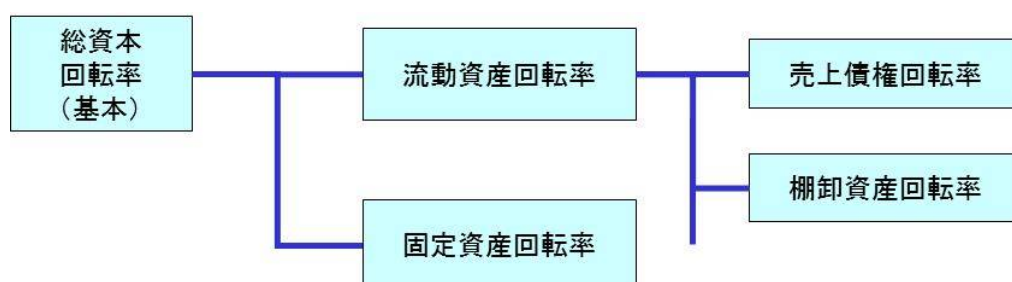
資産とは、会社の財産のことですが、無駄な財産を持つから、そのためにつぎ込まなければならないお金（総資本）が必要になるのです。

もし、左側の財産が少なくなれば、貸借対照表の原則（左右の合計が一致する）から、当然、右側の総資本も少なくて済みます。

どこに無駄な財産があるのか？

それを確かめるために、効率性を以下のように分解して行きましょう。

各回転率は「売上高÷項目」で算出します。



前ページの売上高と、貸借対照表の数字を使うと、以下の通りになります。

流動資産回転率 ……売上高に対して流動資産が多すぎないか？

$$\Rightarrow \text{売上高} \div \text{流動資産} = 2,000 \div 600 = 3.3 \text{ 回}$$

固定資産回転率 ……売上高に対して固定資産が多すぎないか？

$$\Rightarrow \text{売上高} \div \text{流動資産} = 2,000 \div 400 = 5.0 \text{ 回}$$

もし流動資産が多すぎるとしたら、更に原因を追究するために、以下のように更に深掘りします。

売上債権回転率 ……売上高に対して売上債権（売掛金＋受取手形）が多すぎないか？

$$\Rightarrow \text{売上高} \div \text{売上債権} = 2,000 \div 400 = 5.0 \text{ 回}$$

棚卸資産回転率 ……売上高に対して棚卸資産（在庫）が多すぎないか？

$$\Rightarrow \text{売上高} \div \text{棚卸資産} = 2,000 \div 100 = 20.0 \text{ 回}$$

3. 「回転率」を「回転日数」に翻訳する！

前ページで、売上債権回転率は、5.0回と算出できました。
 この売上債権回転率は、通常、営業担当者が責任を持つ指標ですが、ハッキリ言って、「5.0回」と言われても、あまりピンときませんよね。
 担当者が、もう少しイメージできるように「売上債権回転率」を「売上債権回転日数」に翻訳してみましょう。
 翻訳の仕方は、以下の通りです。

$$\text{売上債権回転日数} = 365 \text{日} \div \text{売上債権回転率}$$

よって、上述の例では、 $365 \text{日} \div 5.0 \text{回} = 73 \text{日}$ という計算になります。

この「73日」というのは、非常に意味がある数字で、**販売してから現金になるまでの「平均日数」のことです。**

「販売してから、現金が入金されるまで73日もかかっているんだ・・・これは、もっと短くしないといけないな・・・」

営業担当者にとっては、非常に分かりやすい指標になります。

棚卸資産回転率（在庫回転率）の翻訳方法も同様です。

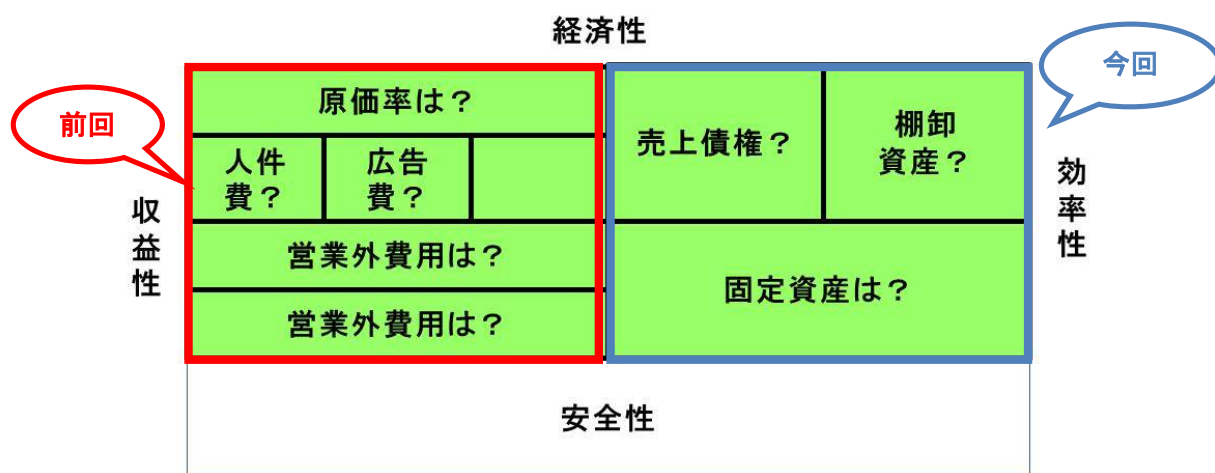
$$\text{棚卸資産回転日数} = 365 \text{日} \div \text{棚卸資産回転率}$$

よって、上述の例では、 $365 \text{日} \div 20.0 \text{回} = 18 \text{日}$ という計算になります。

この「18日」というのは、**仕入をしてから販売するまでの「平均日数」のことです。**

「仕入をしてから、販売されるまで18日なんだ・・・まあまあかな・・・」
 責任部署である、仕入担当者にとって分かりやすい指標でしょう。

さて、これまでの深掘りの考え方を図示すると、以下のようになります。



<次回につづく>